

— ハブラシ回収プログラムの仕組み —



「捨てる」という概念が存在しない未来を目指して

新しい製品を生み出す「マテリアルリサイクリング」を指します。同社は使用済みの製品を原料として新しい製品を生み出す「マテリアルリサイクリング」を指します。同社は使用済みの製品を原料として新しい製品を生み出す「マテリアルリサイクリング」を指します。

「以下オートボックス」との協働による「クルマ用消臭芳香剤リサイクルプロジェクト」をスタートさせました。全国にあるオートボックスの店舗で回収された使用済み芳香剤のパッケージは、交通安全用の反射板キーホルダーにリサイクルされます。持続可能な社会の実現を目指すP&G、自動車事故防止活動を推進するオートボックス、そしてリサイクルを推進しているテラサイクルという3社の方向性が一致して実現したこの取り組みは、SDGsの「つくる責任」を果たそうと模索する多くの企業から注目を集めています。

「マテリアルリサイクル」を
広め、ゴミのない世界に

企業情報
テラサイクルジャパン合同会社



テラサイクルジャパン合同会社は、リサイクルが困難な廃棄物を回収し、さまざまな新しい製品にリサイクルする事業を展開しています。

本社所在地 東京都目黒区
お問い合わせ先 0120-934-746
URL https://www.terracycle.co.jp/



学校へ出張授業に出向き、生徒と一緒にグループワークなどを行っている



左から片山亜沙美さん カワバタ エリックさん(アジア太平洋リージョナルマネジャー) ルーカス マユミさん



テラサイクルジャパン合同会社

テラサイクルジャパン合同会社は、企業と協働して従来ゴミとして捨てられている使用済みの製品やパッケージなどを回収し、新たな製品にリサイクルする事業を展開しています。今回は、現在、日本で進めている「ハブラシ回収プログラム」と「クルマ用消臭芳香剤リサイクルプロジェクト」を中心に、同社の理念や事業について伺いました。



コンセプトは「捨てるという
概念を捨てよう」

テラサイクルジャパン合同会社(以下テラサイクル)は、2001年にアメリカで同社を創設したトム・ザツキー氏が掲げている「捨てる」という概念を捨てよう」というコンセプトのもと、従来はゴミとして捨てられていたものを資源として回収し、付加価値のある新たな製品を生み出すリサイクル事業を展開しています。また、その回収量に応じて協力団体に「テラサイクルポイント」を付与しています。協力団体がそのポイントを活用することで、さらなる社会貢献につながる仕組みです。

環境教育としても広がる
「ハブラシ回収プログラム」

テラサイクルでは、15年からライオン株式会社と協働し、「ハブラシ回収プログラム」をスタートさせました。誰もが使用するハブラシでのエコ活動は身近に感じやすく、手軽に参加できることが特徴です。同プログラムの回

取拠点は、現在、小中学校や歯科医院、ドラッグストアなど全国約320か所にのぼっています。特に小中学校の回収拠点は、同事業の広がりやの基盤となっており、「児童・生徒が簡単に楽しんで参加できるエコ活動」として、授業の一環で参加する学校も増えています。

また、回収協力団体には、回収した歯ブラシ1本につき、2円分の「テラサイクルポイント」を付与しています。このポイントは、任意のNPO団体などに寄付することができるほか、さまざまなリサイクル製品に交換することもできます。

同プログラムでは、これまでに33万本のハブラシが回収されました。同社マーケティング&コミュニケーションマネージャーの片山亜沙美さんは同事業について「単なるリサイクル活動で終わるのではなく、子どもたちの未来につなげていく活動にしていきたい」と話します。

クルマ用品を回収して、
交通事故の減少に寄与

17年からはプロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン株式会社(以下P&G)、株式会社オートボックスセブン